

平成31年度 学校経営シラバス

めざす学校像	めざす生徒像
1 本校の総合学科の理念を踏まえ、主体的で対話的な深い学びと多様な進路実現を保証する教育環境の整備に努める。 2 学校及び地域資源を活かし、社会との連携・協働による文化、自然環境、食を特色とした魅力ある社会に開かれた教育課程の編成に努める。 3 学校を軸とした地域（釧路圏域）づくりを実現する高校として地域社会に評価され、北海道の高校として存在感を示す教育実践に努める。 4 共生社会の形成に向けて支援を要する生徒のニーズに応じた指導の充実を図るとともに、家庭、地域、関係機関等による連携体制の整備を進める。 5 生徒や保護者、地域をはじめとした他者に対する相手意識を常に念頭に置き、人間関係や組織運営を円滑に進めるとともに、勤務状況に配慮し安全・健康管理に努め、信頼される学校づくりを推進する。	1 探究 主体的で協働的な探究により、質の高い学力を身に付け、地域社会の発展に資する生徒を育てる。 2 飛躍 新たな時代において、不撓不屈の精神を以て、自己実現を目指すことのできる生徒を育てる。 3 共生 「人」、「自然」、「食」等に関する実学を通して、生命を尊び、多様性を認め合い、豊かな人間性を持った生徒を育てる。

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	
教育 生活 活動	学 習 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的、対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善 ○指導と評価の一体化による観点毎の能力の確かな定着 ○新教育課程に基づいた指導内容の検討 ○新たな時代に必要な資質と能力を踏まえたカリキュラム・マネジメントの実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における基礎的・基本的内容の確実な定着 ○全教科アクティブラーニングの導入とルーブリック評価の構築 ○スタディサプリ等の教材を用いた自学習慣定着の取組 ○思考・判断・表現の力の向上を盛り込んだシラバスの改善・充実 ○英語教育の推進と授業におけるICTの活用 ○対外的に説明責任を果たすことのできる教育課程の編成 	<ul style="list-style-type: none"> □特に主要科目について、就職や進学に必要な最低限の学力を身に付けさせられたか。 □公開授業等においてアクティブラーニングの導入と評価の工夫に関する取組がなされたか。 □教科・科目における目的とする資質・能力を明確化し、指導と評価の一体化を意識した授業づくりを行えたか。 □新たな教材研究を進め、朝学習の改善、家庭学習課題等、自主的な学習習慣や家庭学習習慣を身に付けさせる取組が1年間継続して行えたか。 □形成的評価としてシラバスを活用し、資質と能力の習得を実感できる授業づくりができたか。 □英会話を用いた授業が行えたか。各授業において国際化を意識した授業が行えたか。 □高大接続についての研鑽を積む等、教育改革の方向性を理解しているか。 □教育課程に基づいた求める資質と能力が各教科・科目に反映されているか。 	
		生 徒 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ○特別な支援が必要な生徒の学習、生活支援体制の確立 ○社会的リテラシーの涵養 ○自主性、自律性に立脚した主体性の涵養 ○家庭と連携しつつ基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習及び生活支援体制の確立と生徒支援の充実 ○モバイル端末等にかかるリテラシーの育成 ○いじめの新たな学校指針の周知と早期発見、早期対応によるいじめの撲滅 ○生徒間ピア・サポートの拡充共生意識の涵養ときめ細かな教育相談の充実 ○日常における生活モラルとマナー、道徳心の涵養 	<ul style="list-style-type: none"> □関係機関との連携により支援が必要な生徒に対応した個別の支援計画を作成し、その実用化に向けた作業を実施できたか。 □SNSに特化した講話等の実施と、効果的な事後指導の工夫がなされたか。 □いじめ発生から1か月以内に状況を把握するとともに、保護者との連携を図りながら解決することができたか。 □いじめに関する新たな学校方針について理解し、全校生徒及び保護者に対して伝えることができたか。 □ピア・サポートについて全教員の理解を深めつつ、生徒同士の実質的サポートが実践できたか。 □生徒理解支援ツールの診断分析と効果的活用を行えたか。 □校外巡視等により日頃の生徒の様子を把握し、教員全員が共通した理解の下での確かな指導を行えたか。 □生徒会執行部にやりがいと成就感を持たせ、自主性を意識して活動できる指導を行えたか。
			進 路 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアガイダンス部(CG部)の機能(全分掌、年次のキャリア教育に係る活動をコーディネート)の重視 ○目指す生徒像実現に向けた諸能力の育成のための全体計画の充実 ○望ましい職業観・勤労観に基づいた多様な進路希望の確実な実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアガイダンス部の機能拡充による教育活動全体の調整と各分掌との連携 ○「産業社会と人間」「自己探究」「課題研究」の関連性と全体計画の明確化による目指す生徒像の実現 ○生徒一人一人に対応した適切な進路指導の実施による進路目標の実現100%達成
健康 ・ 安全 指 導	健康 ・ 安全 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ○健全な心身の成長を促す学校体制の確立 ○心と体を守る全体計画の策定 ○環境美化の推進と質の向上 ○生徒の学校生活における危機管理指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○薬物乱用防止や防犯教室等の健康・安全講習の確実な実施 ○定例職員会議での生徒の状況に関する情報共有 ○J R通学列車添乗、自転車乗車マナー指導の実施 ○通学安全マップの整備と通学路の安全性の確保 ○教育相談週間の実施による生徒理解の推進 ○教科・分掌・部門における危機管理の点検・改善と適切な活用 	<ul style="list-style-type: none"> □実施すべき健康・安全に関する講習を確実に実施し、意識の啓発が確実に行えたか。 □生徒に関する情報共有・共通理解が図られ、生徒指導・教科指導に反映することができたか。 □J R通学や自転車運転マナー指導が計画通り実施されたか。 □関係機関や保護者との連携により通学時の安全性が確保されたか。 □教育相談週間の実施に当たり、教師の教育相談に関する資質が事前に高められたか。 □教育相談週間の実施後、生徒に関する心の問題等について職員間でシェアリングできたか。 □危機管理マニュアルの活用は日常的に遵守され、生徒や教職員の健康・安全意識は高まったか。 	

領域	中 期 目 標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
学校づくり 信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○潜在的いじめの防止 ○防災、人身・実習製品事故等を防ぐ危機管理体制の向上 ○公衆衛生、農場教材管理に係る万全なチェック体制の確立 ○文書管理の徹底 ○町内各機関・地域人材との連携による教育活動の充実 ○服務規律に対する意識向上 ○働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの完全撲滅に向けた取組の具体的実施 ○学校安全危機管理委員会の新設による校内の安全管理に全般に関する管理監督の強化 ○学校農場を活用した生徒への農業への関心・意欲の向上と地域連携の強化及び外部からの体験、研修の場としての一層の充実 ○閉庁日の完全休業、部活動のあり方の理解と実行 	<ul style="list-style-type: none"> □生徒からの情報収集や職員間の情報交換等、いじめの早期発見・未然防止が全体行動としてなされているか。 □「緊急時対応マニュアル」が理解され、各施設管理者による月例の防災安全点検が機能し、危険箇所について早期発見対応がなされたか。 □「作業時の危険予測と安全対策」を全教員が理解するとともに他の部門等においても更新されたか。 □日々の校内危機管理職務がはたされているか。 □本校の教育事業における異校種連携が積極的に図られたか。 □新たに締結した協定に基づき、地域との協働が図られているか。 □開放農場会員による生徒との交流場面ができたか。 □部活動のあり方を定め、閉庁日の完全休業や週休日の設置等、アクションプランの実効性が高まっているか。
	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌の機構改革と各部の連携 ○系列事業の適切な改善と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○校務運営会議の効果的な学校経営の実践と学校運営への参画意識の涵養 ○系列担当者を中心とした事業の推進と新たな事業の開発と統廃合 ○重点目標や方針、ねらいを意識した取組の推進 ○分掌、年次等における重点目標、方策、評価の手順の理解 	<ul style="list-style-type: none"> □機構改革による分掌統合に係る業務について連携を以て実施されたか。 □校内事業が分掌内で検討され、PDCAの検証により目的と効果からその見直しが行われたか。 □組織的に検討された事案が公務運営会議で適正に論議されているか。 □分掌及び系列所管の事業・行事は適正に教育課程に反映されていたか。 □地域貢献の意義を理解し、連携事業の受入、企画立案等が年度の新たな視点で考案されているか。 □各分掌・年次・委員会等において「学校経営計画」で掲げた重点目標の達成度について評価会議で適切に評価できたか。
	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の編成と授業改善の推進、PDCAサイクルによる授業力の向上 ○教員のキャリアステージに応じた研修の推進 ○地域との協働意識の涵養 ○特別支援教育関連の理解 ○公務員の服務についての研鑽 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科指導や服務管理等について教育公務員としての自制的な意識の保持 ○PTA活動への積極的参加と交流 ○内部研修や研修講座を通じて特別支援の現状及びインクルーシブ指導・通級指導の理解 ○教員研修計画に基づいた研修の実施と評価・検証の充実 	<ul style="list-style-type: none"> □校内研修等に基づき新しい教育課程での指導内容や評価が系列や教科で十分検討されたか。 □授業の工夫改善について、具体的取組がなされているか。 □異校種の公開授業等に参加できたか。 □本校のキャリア教育の重点であるインタープリター教育（本校オリジナル）について取組の参加を通じて理解が図られているか。 □教育的な配慮を要する生徒について学校全体での共通理解が図られているか。 □教育公務員として服務規律の意識を持続的に保持する機会を持つことができているか。